

令和元年度 佐賀市立高木瀬小学校 学校評価結果

資料

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
えがお かがやく 高小の子供 ～「時を守り 場を清め 礼を正す」～	「時を守り 場を清め 礼を正す」を人間形成の土台と捉え、この徹底を図りながら、ますます『えがお かがやく 高小の子供』を育てる。重点は、「自律」「整理整頓」「言葉遣い」「生活習慣」の4つである。

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

①本校の特色

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●志を高める教育 (郷土愛)	・佐賀や日本の導き手を育成するための地域(家庭)の協働意識の向上	・「学校は地域(家庭)と連携して、特色ある教育活動を行っている」と答える児童を80%以上にする。	・地域住民(保護者)に学校行事への参加・参画を依頼する。 ・児童が「地域行事に参加しやすいように、地域からの情報を学校でも伝える。」 ・職員も年間3回を目標に、PTA・地域行事(夏祭り、文化祭など)に参加・参画する。	B	児童評価75%、保護者評価96%であった。地域の方に学校行事や教育活動への参加を依頼し、多くの方の協力を得ることができた。児童、教職員もPTA・地域行事へ積極的に参加してきた。	地域行事への児童・教職員の参加については、厳選しつつも、教育効果の高いものについては、積極的に協力していく。
教育活動	○人間形成の土台づくり	・「時を守り 場を清め 礼を正す」態度の育成	・「『時を守り 場を清め 礼を正す』に気を付けて生活している」と答える児童を90%以上にする。	・朝の放送、昼の放送の時、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉から始めることで、常に児童に意識させる。	B	児童評価は85%であった。学校生活の中で、常に「時 場 礼」を意識をして取り組むようになってきているが、さらに実践できるよう指導が必要である。	「完全ノーチャイム」「無言・無音掃除」「高小流あいさつ」を中心にして、日常的に児童に働きかけながら、人間形成の土台をつくっていく。
教育活動	○「ほめほめ活動」	・自己肯定感・自己有用感の高揚	・「友達のよいところを認め、ほめている」と答える児童を80%以上にする。	・各学級で、帰りの会等を利用して、級友を認め合う。 ・給食の時間に「ほめほめタイム」を実施し、全校児童を呼名してほめ合う。 ・計画委員会で「ほかほかポスト」を設置し、「友達の善行」「してもらってうれしかったこと」を募り、紹介する。	B	児童評価は、76%であった。「ほめほめタイム」「ほかほかポスト」の取り組みが効果的であった。各学級の時間でも友達の良いところを見つける児童が増えている。	全校の取組である「ほめほめタイム」「ほかほかポスト」や学級での「よいところ見付け」等を継続し、ほめられる回数を増やしていくことで、友達のよさを認め表すことのできる児童を育てていく。

②【時(知)】「自律」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・自律的活動を誘発する授業の構築	・「授業中、自ら進んで学習活動(発表、交流など)に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。	・交流活動(学び合い)と、自己評価活動(ふりかえり)を学習過程に位置付ける。 ・交流活動と自己評価活動を通して、既習の学習内容や他者の考えを生かし、自分の考えをよりよいものにしようとする意識を高める。	B	児童評価は71%であった。交流活動を積極的に取り入れた結果、児童がその意義を理解し実感できた成果と言えるだろう。自己評価活動の視点を明確にしたことで、児童が自分の変容を少しずつ自覚できるようになってきている。	交流活動の有用性を、児童も教師もさらに実感し、より多くの児童が「自ら進んで取り組んでいる」と言えるように、よりよい交流の在り方を作り実践していく。また、保護者にも交流の様子を伝えるために、授業参観などで積極的に交流活動を取り入れていく。
		・自律的活動を誘発する家庭学習の創造	・「自ら進んで家庭学習に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。	・授業と関係付けた宿題の出し方や自主学習の在り方を検討し、発達段階に応じた内容や量を提示する。 ・家庭学習の手引きを配布し、連絡帳、電話、家庭訪問、通信などを通して家庭(保護者)と連携して家庭学習習慣の定着を図る。	B	87%の児童が家庭学習に「自ら進んで取り組んでいる」と思っているが、保護者の意識は62%にとどまった。家庭学習の手引きを配布したことで、進んで学習に取り組む児童は増加している。	保護者が、児童の学習への向かい方の成長を実感できるように、自主学習を積極的に取り入れていく。内容面では、低中高学年の系統性を考えながら、具体的な内容例を提示し、継続して取り組んでいけるような働きかけをしていく。

③【場(徳)】「整理整頓」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・整頓の意識付け	・「履物をそろえている」と答える児童を80%以上にする。	・靴や上靴、トイレのスリッパは、周りの人に配慮し、そろえるように指導する。 ・ISOチェックシートを使って、毎日意識付けを行う。	A	児童評価は、92%であった。全校放送による称賛や学年に応じた指導で、児童の意識は高まり、履物を揃えることができていた。しかし、保護者からの評価は55%と低く、学校でのよい習慣が、家庭でもできるようにさせたい。	今後、委員会を中心に全校に働きかけながら、学校のみならず、家庭や地域でも履物を揃えようとする意識を高められるよう手立てを継続していく。
		・無言・無音掃除の徹底	・「話をせず音も立てずに、掃除をしている」と答える児童を80%以上にする。	・掃除時間の前には掃除場所待ち、始まりとともに黙想をし、心を落ち着かせて無言・無音掃除をするよう指導を徹底する。 ・掃除前に全校放送を行うことで、無言・無音掃除の意識付けを図る。	B	肯定的評価は児童が81%であった。掃除時間前に集合し、始まりとともに黙想をすることによって、心を落ち着けて掃除をする習慣ができてきた。始まりの全校放送が効果的だった。	まだ少々の話し声、音が聞こえる学年がある。巡回指導等を強化して、指導の徹底を図る。 今年度と同様に、始まりの全校放送、黙想を継続し、無言・無音掃除の意識づけを徹底する。

④【礼(徳)】「言葉遣い」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・やさしい言葉遣いの推進	・「『さん』を付けて友達を呼んでいる」と答える児童を80%以上にする。	・児童の人権を尊重し、教師自らが模範を示すことで、「さん」を付けて呼ぶことを意識させる。	B	肯定的評価は児童が56%であった。昨年度は「さん」、「くん」を付けて友達を呼ぼうであったが、今年度は「さん」だけだったので、数値が低くなったのではないかと考えられる。	次年度も継続して「さん」をつけて呼ぶことに取り組んでいく。児童の意識は高まっているので、実践意欲を高める声掛けを行っていく。
		・正しい言葉遣いの徹底	・「目上の人に、『です』『ます』の敬体で話をしている」と答える児童を90%以上にする。	・「時・相手」を視点に置いた指導を継続するとともに、授業中の発表の際には、返事を怠ることなく、最後に「です」「ます」を付けることを徹底させる。	A	肯定的評価が91%で目標数値を達成することができた。昨年度は保護者と児童のアンケート結果の差が20%であったが、今年度は13%に縮まった。	次年度も90%以上の肯定的評価を達成すること、保護者との意識の差を更に縮めるためにお便り等で呼びかける。

⑤【体(時・場・礼の基盤)】「生活習慣」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・早寝早起き朝ごはんの習慣付け	・「早寝早起き朝ごはん」を意識して生活している」と答える児童を80%以上にする。	・「すこやか点検」の項目に「10時までに就寝」を決めた時刻までに起きる」「朝ご飯を食べる」を入れ、集計をとる。 ・保健便り、給食便りで、早寝早起き朝ごはんの大切さを呼びかける。	A	年3回のすこやか点検の結果、10時までに就寝できた人の割合が80.9%、決めた時刻に起床できた人が92.8%、朝食摂取率が97.7%となった。すべての項目で目標の80%を超えているが、学年が上がるにつれ、10時までに就寝できている児童の割合が低い。	次年度も継続してすこやか点検を行い、「早寝 早起き 朝ごはん」の規則正しい生活が習慣化できるよう呼びかける。
	○あいさつ	・「高小流あいさつ」の習慣付け	・学校や地域(家庭)でも、「時と場の状況に応じて、『立ち止まって、お辞儀をして』あいさつをしている」と答える児童を80%以上にする。	・毎朝、計画委員会で「あいさつ運動」を実施し、毎日、給食時間に「あいさつ名人」を紹介する。 ・全校朝会で「高小流あいさつ」を紹介し、学期1回、「あいさつ名人」を発表し、「あいさつ名人パッチ」と賞状を与える。	B	児童評価は、76%であった。「高小流あいさつ」の意識は高まっているが、実践できている児童は、80%には至らなかった。	児童がよかったことを紹介する「ほかほかポスト」や「ほめほめタイム」にて、日ごろからよく実践できている児童を紹介し、啓発を行いながら実践する児童を増やしていく。

⑥重点に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	・楽しい学校生活の構築	・「友達楽しく学校生活を送っている」と答える児童を90%以上にする。	・日々の児童の言動等を注視するとともに、毎月「こころのアンケート」を実施することで、積極的にいじめを見付け、早期に対応する。 ・気がかりな児童には、個別の対応を継続する。	A	「友達楽しく学校生活を送っている」と答えた割合が、保護者95%、児童93%で、目標数値を達成できた。昨年度と比較しても児童の肯定的評価の割合がさらに伸びている。 毎月の「こころのアンケート」の結果に対して、早期に、個別に丁寧に対応し、その後の様子まで確認することを徹底する。	今後も、毎月の「心のアンケート」を実施し、「楽しい」と評価しなかった児童への対応をより丁寧に行う。その場のみならず、継続して見守ることで、いじめの早期発見・早期解決を図る。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務効率化の促進	・勤務時間を意識した働き方を定着する。	・部会分掌とともに、学年主任と部長の分離、ミドルリーダーの重責化を促進し、業務の標準化を図る。 ・会議数を精選し、学期末1ヶ月間は特別校時にする。 ・金曜日を定時退勤日とし、声を掛け合う。	C	19時30分までに退勤、金曜日の退勤時間18時30分は、守ろうという意識は生まれている。20時にほとんどの職員が退勤するものの、20時過ぎまで勤務するも職員もいる。 学期末の特別校時の実施は、勤務時間削減につながっている。	19時30分退勤を義務化するとともに、時間外勤務月45時間以内を意識し、45時間を越えない仕事の仕方を意識させる。 学期末の特別校時実施は、来年度も取り入れていく。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組
13項目のうち、A評価は4項目、B評価は8項目、C評価は1項目という結果となった。 学校目標の達成に向けて、全職員の知恵を結集し、手立てを更新し、さらに高みを目指していきたい。一番の課題は、超勤時間の削減である。早く帰ろうという意識はあるが、実際に業務が終わらない。丁寧にしようすると超勤が増える。これまでに以上に計画的に業務を行うことや見直しが必要だ。

●は共通評価項目、○は独自評価項目